

ヴェルディ 歌劇 椿姫(全3幕)

ヴィオレッタ・ヴァレリー (S)

アルフレード・ジェルモン (T)

ジュルジョ・ジェルモン (Br)

チューリヒ歌劇場管弦楽団 合唱団

ALTHAUS DVD

第1幕

1850年頃のパリ。ヴィオレッタの館で華やかな夜会が行われている。ここでヴィオレッタは自分を崇拝しているというアルフレードを紹介される。彼女はこの若者の真面目な態度に注意を引かれる。アルフレードは休んでいるヴィオレッタに親身になって健康を案じ、愛を告白する。ヴィオレッタはこれをあしらおうとするものの相手のあまりに純粋な態度に心打たれ、椿の花を渡して再会を約束する。その夜、宴の後、ヴィオレッタは物思いに老ける。娼婦の自分に真実の愛を思い起こさせたアルフレードに心乱れるのだった。

第2幕

数ヶ月後、ヴィオレッタは今までの世界から出てアルフレードとパリ郊外の田舎家で暮らしている。幸せな生活を満足していたアルフレードは女中のアンニーナからヴィオレッタが自分の財産を売りながら生活を維持していることを知らされ、自分の甘さを恥じ財産を買い戻すべくパリに発つ。アルフレードが留守の間にアルフレードの父であるジェルモンが不意にヴィオレッタを訪ねて来る。ジェルモンは子アルフレードがヴィオレッタに誘惑され財産を貢いでいると思い込んでいる。しかしヴィオレッタの態度や帳簿をみて誤解を解く。しかしジェルモンは娘の縁談に差し障ることなどを説きアルフレードと別れることを説得する。ヴィオレッタはアルフレードを真剣に愛していることを訴えるが、ついに別れを決意する。ジェルモンが立ち去るとヴィオレッタは元のパトロンだったドゥフォール男爵に連絡をとりアルフレードに別れの手紙を書く。そこに現れたアルフレードに涙ながらに言葉を残しパリに発つ。そこに別れの手紙を見てアルフレードは激しく動揺する。それを見守っていたジェルモンが現れ、息子をなだめ説得するが、興奮したアルフレードは彼女を追っていく。

場面はパリに変わる。賭けトランプに興じるアルフレード。そこにやってきたドゥフォール男爵とヴィオレッタを見てヴィオレッタを激しく侮辱する。ヴィオレッタはアルフレードの身を案じてこの場を立ち去るよう忠告するが、アルフレードはさらに逆上し、さらに彼女を罵り、金を叩きつける。ヴィオレッタは失神する。人々の避難、後を追ってきたジェルモンの叱責、さらにドゥフォールからの決闘の申し込みにアルフレードは青ざめる。

第3幕

1ヶ月後。胸の病に倒れ財産もあらかた売り払ったヴィオレッタはパリのみずぼらしいアパートで病床についている。すでに彼女は死を予感している。そこにドゥフォーール男爵を傷つけた決闘の後、外国に逃れていたアルフレードが戻ってくる。2人は再び固く抱き合う。ヴィオレッタは生きる力を振り絞ろうとするが、病に冒された体はもう自由が効かなかった。ジェルモンが医者と駆けつけ、2人を許すが、もう時間は残されていなかった。ヴィオレッタは愛するアルフレードに看取られながら息絶える。

作品について

椿姫は1853年に作曲され、同年3月に初演されている。「椿姫」の小説を手にしてヴェルディは創作意欲をわかせる。台本をピアヴェ（リゴレットの脚本を書いた人です）に依頼。作曲に取り掛かるが、わずか1ヶ月半で書き上げたという。



演奏者

エヴァ・メイ（ヴィオレッタ）

イタリア生まれのソプラノ。モーツァルトを中心に活躍し、チューリヒ歌劇場の中心メンバーである。ミラノ・スカラ座などでも活躍している。

ピョートル・ベツァーラ（アルフレード）

1966年ポーランド生まれのテノール。チューリヒ歌劇場、メトロポリタン歌劇場の中心メンバー

トマス・ハンプソン（ジェルモン）

1955年アメリカ生まれのバリトン歌手。ニューイングランド音楽院などで後進の指導にもあたっている。

フランツ・ウェルザー＝メスト

1960年リンツ生まれ。ヴァイオリニストを希望していたが、交通事故で背骨を骨折。指揮者を志す。ロンドン・フィルの音楽監督、チューリヒ歌劇場音楽監督に就任。クリューヴランド管弦楽団の音楽監督、ウィーン国立歌劇場総監督を歴任した。

